

みんつく討議の概要

- 実施期間 令和2年10月22日（木）～11月2日（月）
- 主なご意見等

【A】

A-1 みえるみんなのナースセンター

- ・看護大学だけに設置する意味はないのではないか。三重県の防災事務所全てに置くぐらいでないと渋滞しててたどり着けない。
- ・大学やフェアを活用した事業があるが、いろいろな部局から事業が乱立している。本当に提案者の意見を反映しているのか。
- ・「寄り道カフェ」というタイトルが良いと思う。
- ・ナースセンターを設置すること自体、県がやる意義があるのか。

A-2 個人レベルでのエネルギー備蓄に対する助成事業（三重県民グリッド）

- ・スマートグリッドの事業について、提案者の意見を反映していない気がする。

【B】

B-1 採用活動支援WEB合同説明会開催プラン

- ・若者の就職難だけは避けなければならない。若者が未来志向をもって、三重県で就職して貰えれば、5年後、10年後の三重県にとって予算化する意味がある。
- ・説明会だけでなく、インターンのWEB化も検討してほしい。
- ・民間企業でもやっていると思うが、差別化されているのか。
- ・民間企業が見つめてくることができないような求人などを掲載していくことが大切だと思う。
- ・一般会計で実施すべきであり、みんつく予算でやる事業ではない。
- ・対象を若者に限定するのは危ない。コロナパワハラやコロナ鬱の方に届かない。
- ・県外の方が都市部で働きたいというニーズがあるため、そのような人たち向けに支援をしていくといいと思う。

【C】

（全体について）

- ・事業提案の重複がある。統合してほしい。

C-1 障がい者の為の農業塾

- ・税金を大量に投じた6次産業化はハイエナコンサルに狙われてしまうために良い結果を生まない。

C-2 三重の料理人によるオンライン「おうちごはん」料理教室

- ・料理をつくる過程をビデオで残し、youtube で配信することでいつでもどこでも見られるようにしてほしいです。(youtube だと、外国語の字幕を付けてみることも可能です)
- ・日本料理をつくってみたい外国人住民もたくさんいますので、参加しやすいように募集や実施で配慮していただきたいです。
- ・PTA 行事等で、行いたい人間が行いたいように実施するほうが効果がある。

C-3 海女さん三重る化プロジェクト

- ・仕事内容や、いつどこで、何を採ってるのか、分からないことが多く、カメラ装着での実演、採取物の販売とかは良いPRになると思います。
- ・海女さんの魅力を発信、新鮮な採取物の販売、とても良い企画だと思います。
- ・海女漁以外の分野にも派生していけるような支援をいただければと思います。
- ・海女さんに視点をあて、視覚に注目した発想は、今までとは違う角度から観光にも貢献できると思いました。
- ・海女さんのやる気がでる、後継者不足に貢献できる、三重県民に再度地元の再発見をしてもらえるなどとてもいい提案だと思います。
- ・伊勢志摩サミット以来、関心が高まっている今だからこそ、もっともっと海女の事を発信してほしい。また、それによって後継者不足の解消や海産物の売り上げにも繋げてほしい。
- ・海女さんのプロジェクトは民間の事業とどこが違うのかを出していかないといけない。VR動画などこれまでと違う視点など。
- ・県の予算ではなく観光連盟の予算で行うべきものである。

C-5 大人の社会科見学

- ・三重県には多くの自然があり、その魅力を多くの方に伝えていただきたい。
- ・Web を使った地元ならではのツアーや、現地の人マイナーなところを紹介するようなツアーの人气が高まってきていると聞きました。大人の社会見学についても、VR などの先進技術を使って三重県の素晴らしい自然の魅力や、VRを通してだからこそ味わえる魅力を伝えるようにしてはどうでしょうか。体験コンテンツの磨き上げや創出も地域の魅力を高めるために必要ですが、その一方で、コロナ禍で、今後の状況がどのようになるかはわからないこともあり、あわせてVRなどの技術を使ったツアーやプロモーションを実施するとより効果も高まるように思います。
- ・名前が悪い。社会科は教科の名称である。大人に用いるべきでない。
- ・観光連盟の予算でやるべきではないのか。みんなの予算は違う。

C-6 おうち大好きすごもり女子の快適生活プロジェクト～三重の「こだわり」

お伝えします～

- ・性別を限定すべきではない。

- ・対象者を限定しないでほしい。

【D】

(全体について)

- ・重複する事業があり、事業の統合が必要。

D-1 ~健康増進プロジェクト~、D-2 みんなでやろう おうちで健康プロジェクト!!

- ・超高齢化社会に進んでいる現在、自分の体や心をセルフケアすることはとても大切だと思います。社協や公民館での活動など、自分が住んでいる参加しやすい地域で僻地であっても健康増進活動ができれば嬉しいです。そのための予算がつけば活動がしやすくなると思い健康を増進するプロジェクトを応援したいです。

D-2 みんなでやろう おうちで健康プロジェクト!!

- ・三重健康とこわかマイレージ事業と重複しているのではないか。

D-3 職場や上司の人としての質の向上プロジェクト

- ・不妊治療に理解の無い人間は人としての質が劣っていると定義してしまうと対話が成り立たなくなる。どれだけ不満を持っていようと対話の道筋は残しておかないと改善につながらない。

D-4 公園から地域を元気に！ 運動で健康プロジェクト！

- ・アフターコロナにおいても公園の健康増進の場としての利用はさらに続くものと思いますので、健康遊具の設置を進めるのは、今しかないと思います。様々な器具が最近では開発されているので、誰もが楽しめ親しめる器具の設置を望みます。
- ・既存の公園の遊具を整備して使える様にして欲しいです。また、今後は新たに遊具施設の設置箇所を増やして、手軽に運動ができる環境を増やして欲しいです。例えば海岸の砂浜の上に大人用の鉄棒を設置するだけでも環境が作れると思います。
- ・公園遊具の問題。一部の公園では老朽化で、使用禁止になっている。県の管轄以外になるかもしれないが、小さな公園の整備をすすめていくことが大切。
- ・簡単な遊具の設置を進めていくことが大切。砂浜に鉄棒の設置など。

D-5 県民の健康を守るプロジェクト

- ・県内市町のみみんなでやろにフレイル予防事業と重複しているのではないか。

D-7 みんなが健康に過ごせる公園を目指す事業

- ・遊具への抗菌加工が可能であればすぐにでも実施してもらいたい。一時公園閉鎖、遊具使用禁止の措置をしていた公園も多かったですが、抗菌加工が効果的に処置できるのであれば、まさに安全安心に楽しめる公園として利活用がさらに進むものと思います。民間の有料公園ではなく、行政の運営する都市公園

での率先した取り組みが大事かとも思います。

D-9 街路樹見直しプロジェクト

- ・コロナと街路樹に何の関係があるのか。

D-10 子どもたちのいのちと人権を守る性教育プロジェクト

- ・子どもの命や人権に関わる性教育を外部講師による出前授業などで広げていく必要があると思います。発達段階を考えた、子どもの生きる力につながる性教育を是非とも積みあげてほしいです。性暴力や望まない妊娠で苦しむことがないように、今こそ自分も相手も大切にできる生き方ができるよう取り組んでほしいと思います。
- ・妊娠レスキューダイヤルの SNS 相談等、若者がアクセスしやすいツールの相談窓口は重要だと思います。
- ・性教育は小学生低学年から、友達、自分の人権を守る、思いやることにもつながるから行うべきだと思います。また、インターネットなどで簡単に色々調べられる現代でも正確な情報を得にくい分野だと思うので、正しい知識を持った方が小学校、中学校、高校などそれぞれに合った内容で行うべきだと思います。このプロジェクトを進めて欲しいと思います。
- ・今の子供達の置かれている環境の危なさを知り、子供達を守る環境づくりが必要だと感じます。
- ・専門家の意見、話が聞ける機会、気軽に性について相談できる施設等の充実を願います。
- ・インターネットやメディアで、性情報はあふれ、子どもたちがそれらに触れて影響を受けている実態があり、特に SNS を中心としたトラブルが小学校でも増えています。また、LGBT など性の多様化についての理解や取組みを教職員が共通理解をもち、発信し続けることの課題もあります。子どもが疑問を抱いても、性をタブー視して返答しなかったり、自分でインターネットで調べなさいと親にすすめられたりした子どもは、商品化された性と現実を勘違いしたり、いたずらに相手を傷つけてしまったりすることもあります。思春期におこる心身の変化、妊娠・ライフプランニング、性感染症、男女交際（デートDV）、LGBT などについて正しい知識を持つことが大切ですが、学校現場で教職員自身がアンテナを高く持ち、知識をアップデートし続けるために、こうした専門の方からの講演会や研修会などを充実していくことも必要です。これらのことから、この事業が予算化されることを切望しています。
- ・小さい頃から自分の体を大切に学ぶは性暴力に対する意識を高めると思います。家族や知人など身近な人からの性暴力を予防するには第三者による学びが大切です。外部講師による性教育を受けられる機会を是非とも増やしてほしいと思います。
- ・子どもの性教育は子どもにも親にも必要な事だと思います。1人で悩みを抱え

て苦しめないように、性教育で正しい性の知識がたくさん広がりますように願います。

- ・ニュースで子供たちを狙う性犯罪が増えてきて心配です。今はネットなどでのいろいろな誘惑などもあり、子どもたちもいろいろな危険を知ることが大切だと思います。また、家庭環境も昔と違い忙しく働きに出ているお母さんの多い今、ゆっくりと具体的に教えてもらう機会も少ないと思います。いろいろな人とのかわりの少ない今、地域や周りの人から体得する人に対する優しい思いなどを学んでいくことが希薄になっています。このプロジェクトをやろうとしている専門的な人に、純粋な小学校時代から正確な知識をえたり共感したりする経験は子どもたちにとっても有意義で今の教育にとっても必要かと思います。
- ・必ず行うべき事業であり、みんつくではなく、一般経費で対応すべき。
- ・ライフプラン教育と重複しているのではないか。

D-11 支援と教育・啓発を連動させた性暴力を許さない社会づくり事業

- ・必ず行うべき事業だが、投票で最下位になってしまうとニーズが無いと判断されてしまう恐れさえある。みんつく投票の対象にするべきものではなく、一般会計のほうで行うべきだ。
- ・インターネットやメディアで、性情報はあふれ子どもたちがそれらに触れて影響を受けている実態が広がっていることをここ数年で特に体感しています。子どもが疑問を抱いても、性をタブー視して返答しなかったり、自分でネットで調べなさいという大人も少なくありません。思春期におこる心身の変化、妊娠・ライフプランニング、性感染症、男女交際（デート DV）などの関わり方について正しい知識を持つことが大切ですが、学校現場で教職員が教え、寄り添い、対応するには様々な視点で限界を感じています。全ての子どもたちには、自分や自分の大切な人の将来を守るために被害者・加害者になることなく、健全に成長して行ってほしいと願っています。これらのことから、この事業が予算化されることを切望しています。

D-12 『海・山・都市 リラックスコミュニティ@三重』

- ・海、山、街が同居する三重の魅力を楽しむことができ、かつマインドフルネスなど今流行りのアクティビティにも参加できて魅力的だと感じました。
- ・ヨガやマインドフルネスなど、今のビジネスマンの中で人気がある。興味がなくともやったことがない人がいるはず。いい事業だと思う。
- ・支援の行き届いていない困窮者への絶望を拡大させ、自殺につながる懸念がある。
- ・GO TO イート、GO TO トラベルの対象にするべき。
- ・観光アクティビティであるので、利用者からお金をもらってはどうか。体験型のものは観光連盟、アソビューなどで半額になる施策があるため、さらに体験

メニューが多くなるといい。

D-13 密を避けたドアツードアの移動サービス利便性向上事業

- ・導入するシステムがMaaSに組み込まれていくとよいと考えます。
- ・密を生むのは通勤だと思う。企業とタッグを組んでやってみるのもおもしろいと思う。(会津若松の事例)

【E】

(全体について)

- ・事業提案の重複がある。統合してほしい。

E-1 新型コロナウイルス環境下での三重県人権宣言

- ・県教育委員会人権教育課か環境生活部人権課で既に実施されているのではないかな。

E-2 コロナなどの誹謗中傷をなくそうプロジェクト

- ・高等学校や特別支援学校にも配布してほしい。
- ・小中学校に限定する必要がない。
- ・コロナとの戦いは長期化していくと思われま。誰一人として嫌な思いをしないため、差別、偏見を徹底的になくすために充実した事業展開を望みます。
- ・SNSなどで自ら命を絶つ人が増える中、啓発していくことが大切。
- ・子どもたちも誹謗中傷してはいけないと思っているができていない。受け身の授業ではなく、子供たちが意見を言えるよう、授業も工夫し、もっとアクティブな授業にしてはどうか。
- ・県が実施するのではなく、市町のお金でやるべきではないかな。

E-4 “うわさ”は、人を善くも悪くもする。情報発信の目的を考えよう！

- ・情報発信に関しては、県警のサイバー犯罪対策担当部署とタッグを組んで誹謗中傷の防止を啓発してほしい。
- ・人を善くする噂など存在しない。本人に確かめればいいものを本人に確かめもせず不確かなまま陰口を叩いているものばかりである。
- ・タイトルが悪い。

【F】

F-2 三重式ダイバーシティテレワーカー育成事業

- ・従業・勉強の機会を得ることにつながると思う。彼らの未来につながる事業にしてほしい。
- ・雇用経済部で既に実施されていると思うので、みんつく予算でやるべきではない。それとは別のものを実施した方がよいのでは。
- ・障がい者目線のヒアリングは、上から目線ではなく、同じ目線でやってもらうとよいのではないかな。

- ・県が実施する場合は県に都合がいい人を選びがち。ほんとうにその人の意見が反映されるのか。後見人や周りのひとの意見ではなく、本人の意見を聞くべき。

F-3 バーチャル職業体験推進プロジェクト

- ・職業体験はキャリア形成には繋がらない。

F-4 「DX を活用してコロナ禍で将来の夢を描く！」プロジェクト

- ・採用活動に社内予算をかけられる企業が勝手にやればよい。税金の使い方として公平性を著しく欠く。

F-5 新時代を創る若者へ【ミライ授業】で未来モンスターへ

- ・未来像をどれだけ描こうと無駄だ。

F-6 「若い芽をDXで育てよう！」

- ・若い芽が考え方を多様化したところで、メンバー型やジョブ型が実際に実現しなければ全く意味が無い。

F-7 三重から国際人材育成プラン

- ・みんつく予算ではなく、一般会計で実施すべき。

F-8 マナビバ ミエ！～よろしくね、これからのわたし～

- ・大人では考えつかない子供ならではの視点からのビジネスプラン立案は、新しい発見につながると思う。
- ・年齢を限定する必要はない。

○その他ご意見

- ・三重県身体障がい者総合福祉センターの大規模改修&リハビリ病院の併設と建設も検討してほしい。
- ・県民を対象とした誰でも無料で身近な問題を学ぶ e ラーニング事業を検討してほしい。県民へ横展開し、県民の常識レベルアップに役立つのでは。堅苦しくならないようにイラスト・漫画もいれてはどうか。
- ・みんつく予算の提案に敗者復活戦があると良いと思う。
- ・国体の年なのに、どうしてみんつくの提案がないのか。
- ・環境問題、ゴミ問題などに関する事業はないのですね。
- ・海や川だけでなく、山や森といった緑も多い三重県では、地球温暖化や環境汚染が進むことによって受けるダメージは計り知れない。コロナ禍において、世界的に大気汚染が改善されているという事実を好機ととらえ、今後経済の再生を行っていく中でグリーンリカバリーの考え方を取り入れるべきである。

ブラッシュアップ懇話会（事業改善に向けた有識者懇話会）のメンバーからの意見の概要

令和3年度当初予算に向けた「みんつく予算」にかかる県民からの意見募集「みんつく討議」の一環として、ブラッシュアップ懇話会を持ち回りで開催し、懇話会メンバーにみんつく予算についてご意見を伺いました（令和2年10月26日に持ち回りで実施）。

●持ち回り開催の出席者

- ・ 織田 拓 株式会社三重ティーエルオー 三重大学産学連携コーディネーター
- ・ 齋藤 平 皇学館大学文学部 教授
- ・ 千田 良仁 皇学館大学現代日本社会学部 教授

●主なご意見等

- ・ 新型コロナ対策として、リモートやオンラインでの取組提案が多いが、年齢層によってはハードルが高いため、事業のターゲットをよく考える必要がある。共通のプラットフォームを作ったり、アドバイザーやコーディネーターをつけたりするなど、実施方法やノウハウを工夫・検討する必要がある。
- ・ 事業のターゲットに合わせて、テレビやウェブなどのメディアをうまく使うことが必要である。
- ・ 事業によってオンラインでの取組だけではなく、体験の要素を組み込むことで高い効果が期待できる。
- ・ 事業構築にあたっては、類似する提案をまとめた形での事業化や、すでに取組を進めている事業者などの関係者との連携、将来的な展開やコストを含めた検討が必要ではないか。
- ・ 効果のあった事業については、インセンティブを付与したり、既存事業とうまく連携したりするなど、翌年度以降も継続的に取り組めるようにする仕組みがあるとよいのではないか。
- ・ 「自分の提案が他者から共感を得て事業化される」というみんつく予算の取組は、非常に意義のあることであり、事業の進捗や実施をしっかりと広報することで、提案者を含めた県民の満足感を高めることが可能である。